



別府市制100周年

熱海市長 齊藤 栄

この4月1日、熱海市の姉妹都市である大分県別府市が市制施行100周年を迎え、その記念式典に参加してきました。

熱海市と別府市は昭和41年に姉妹都市提携をし、多くの親善交流が行われました。平成28年の熊本地震の際には、風評被害を受けた別府市を元気づけようと61名の熱海市民訪問団が別府市を訪れたことは今でも記憶に新しいところです。その翌年には今度は別府市の友好交流訪問団が熱海市を訪れ、さらにその翌年には「別府温泉の恩返し」として、別府市からタンクローリーで約7トンもの温泉が熱海駅前足湯に運ばれました。

100周年記念式典は大変良く企画されていて、これまでの市の歴史を100歳の別府市民のご婦人のインタビューを通して振り返り、また、小中学生そして高校生が「べっふ未来宣言」と題して、それぞれの未来への希望を語っていました。市民全員で100周年をお祝いするとともに、新たなまちの未来を創っていかうという気概を大いに感じるものでした。

宿泊した別府市のホテルの窓外には、広大な扇状地から多くの湯けむりが立ちのぼる、別府温泉ならではのダイナミックな風景が広がっていました。熱海市と別府市は温泉の規模や地形は異なりますが、長期的な経済の低迷や若年層の流出など温泉観光地共通の課題を抱えています。これからも温泉地の両雄「東の熱海、西の別府」と言われるよう、互いに切磋琢磨してまいります。